

「ねがいごとの赤いふね」を読んで

一年生

⑦ 「読んでどう思った？」

⑦ 「きつねのこんすけにわたさなきやっていうところがえなかった。あかいふねがほしいっておねがいしたらほんとうにねがいごとがかなってうれしかったんだとおもう。」

⑦ 「そうだね。お願い事が叶って赤いふねが自分のものになって、嬉しかったのに、きつねこんすけって、きつねの子の名前かもしれないって気づいたことも、その子に船を返したほうがいいって言えたことも偉かったね。最後にかばくんはどんな夢を見たと思う？」

⑦ 「あしたふねをかえさなきやっておもって、ふねをだきしめたり、さいごにふねでたくさんあそんでるゆめをみたとおもう。それできつねのこんすけにちゃんとかえすことができたとおもう。」

⑦ 「かばくんの夢に見た事はきつと叶うだろうね。」

⑦ 「うん。またかばくんにもいいことがあればいいな。」

「アイスクリームのはなし」を読んで

一年生

⑦ 「このおはなしを読んでどう思った？」

⑦ 「むかしの人は冷蔵庫をつかわずに氷を大事に使っていたことがすごいと思った。」

⑦ 「そうだね。寒い場所で取れた氷をいろいろな工夫をして運んでいたんだね。」

⑦ 「ちょうど、昨日、お店でアイスクリームを買って、家で食べたけど、こうやって簡単にいつでも食べられるようになるまでに、たくさんの年月をかけて、昔の人が冷たいものをおいしく食べるために色々考えて工夫したおかげだということが分かったね。」

⑦ 「こんどアイスクリームを食べる時はこのおはなしを思い出しながら食べようと思った。」

⑦ 普段よく食べているアイスクリームですが、昔の人の苦労や努力のおかげで食べることができているのだということが改めて知ることができました。スーパでも安く簡単に買える今ですが、このようなおはなしを通じて少しでも感謝の心をもって食べてくれたらいいなと思いました。

「あいすくりーむのはなし」をよんで

一年生

ぼくは、あいすくりーむがだいすきです。このほんには、あいすくりーむのれきしかかれています。きになつてえらびました。まず、むかしはおうさまやおひめさまのようなくべつなひとしかたべられず、いまのあいすくりーむができるまでなんびやくねんもじかんがかかっていることにびっくりしました。

また、はじめはゆきやいけのこおりにくだものしるやのみものをかけてたべていたこと、れいぞうこがないのでつぎのなつまでゆきやこおりをあなのなかにいれてほぞんしていたことをしつて、おいしいのかな？おなかはいたくならないのかな？ゆきやこおりはよごれないのかな？きれいならたべてみたいなおもいました。

むかしのひとがなんびやくねんもじかんをかけてくふうしながらつくりあげたあいすくりーむ。なんしゆるいもあつてえらぶのもたのしいあいすくりーむ。いままでおいしいおいしいとただただただただこれからはひとくちひとくちあじわいながらたべたいとおもいます。

「ねがいごとのあかいふね」をよんで

一年生

おとうさんと「ねがいごとのあかいふね」をよんでかばのこのきもちをかんがえました。

かばのこは、ねがいごとをしたあかいふねがめのまえにあらわれたからうれしかった。でも、きつねのこんすけがいっぱいさがしたけど、みづからなかったからかなしんでるかなっておもいました。だからゆうびんやさんでとだけようとおもいました。でもどいたかわかりません。きつときつねこんすけのおうちにとどくとおもいます。

（父）欲しかったものが手に入って嬉しかったかばの子。でも人のものだと思つた時、欲しいものを手離したくなく、認めたくなかった。しかし、冷静になり考え、相手の気持ちになり、持ちぬしの元へ返そうと思つた。この本を読み、相手の気持ちを一番に考えれる子に育つてほしいなと思つた。一緒に感想文を書いてみると、本人もかばの子と同じように相手の気持ちを考へていけると感じとる事が出来、ほつとしました。

親 このお話を読んでみるとどんな事が心に残った？

子 あねさんがとっても賢い人だなあと思ったよ。

親 どんな所が賢いなあと思ったの？

子 わかものが仕事をしなくなってしまった時に、自分の似顔絵を書いてあげた事や、とのさまに連れて行かれた時も、桃の種を渡したところ。

親 そうだよ。あねさんはわかものの気持ちも考えて仕事が出来るように絵を書いたり、とのさまにつかまった時は、とのさまの申し出を断つたら自分だけじゃなくきつとわかものも大変な目に合うかもしれないから、よく考えて桃の種を渡したよね。あねさんは、困った事が起きても、いつもよく考えて行動したから良い結果になったね。じゃあ、とのさまの方はどうだった？よく考えて行動出来てた？

子 出来てなかったと思う。

親 どんな所がそう思った？

子 わかもののお嫁さんなのに、自分勝手にとってしまったところ。

親 そうだよ。わかものや、あねさんの気持ちも考えずに連れて行ったんだよ。好き勝手にやった結果はどうだった？

子 お城から追い出される事になったよね。

親 そうだったよね。じゃあ〇〇君は、あねさんみたいな人になりたい？それともとのさまみたいな人になりたい？

子 あねさんみたいになりたい。

親 どうしてそう思う？

子 賢くて、よく先の事も考えて、良い結果になるから。

親 そうだね。たとえ困った事が起きたとしても、落ち着いてじっくり先の事を考えてから行動する事って大事だよ。〇〇君もママもあねさんを良いお手本にしたいね。

このとうじょうじんぶつは、かばのこと、かばのおかあさんができました。

このおはなしは、ねがいごとをしたはなしです。かばのこがあかいふねがほしいとねがいごとをして、それがありませんでした。でもあかいふねは、きつねのこんすけというなまえがかいてあってあかいふねをなくしたこどもがいることがわかって、あかいふねをかえすようになったおはなしです。

ここにのこったことは、かわからあかいふねがながれてきたところ。です。りゆうは、ねがいごとがかなってうれしくおもしろい。

でもきつねのこんすけと、かいてあったのできつねのこがいまいないかもしれない。ぼくもたいせつなものをなくしたらかなしいのであかいふねをかえすことをしたかばのこは、えらいとおもしろい。

「あいすくりいむのはなし」を読んで

一年生

「ねがいごとの赤いふね」を読んで

一年生

親 子 「読んでどう思った？」

子 「昔の人は、氷を山からとってきて溶けないように色々な工夫をしてすごいなあと思った。」

親 「そうだね。昔の人がいろいろと工夫して頑張ってくれたおかげだね。それで今はどうなった？」

子 「おいしいアイスクリームが簡単に食べられるようになった。」

親 「アイスクリーム以外の食べ物でも、昔の人たちがいろいろと工夫してくれたおかげで今は簡単に食べられるようになった物もたくさんあるだろうね。」

子 「そうだね。いっぱいあると思う。」

親 「だからたくさんの人達に感謝して食べようね。」



「例えば○○ちゃんが欲しかったものがそこにあったとする。でもそれは弟のだった。でも○○ちゃんはどうしても欲しいもの。さあどうする？」

と自分に例え分かりやすく解説しました。

「返す！」と言った娘に「どうして？ほしいのに？もらったらいいじゃん」と言うと、

「だめよ！弟の大切なものかもしれないじゃん」と言われました。

いつも物の取り合いでケンカが絶えなく人の気持ちがわかるようになってくれるのか？と心配していましたが、この本と一緒に読んで考えるとケンカはするが、人の気持ちはわかる子なのだと安心しました。

本の主人公のように自分の気持ちだけでなく他の人の立場、気持ちを考え行動できる、そんな人になつてほしいと改めて思いました。

そして、この本は親が子にどう伝え教えるのか、一緒に考える親の勉強にもなる本だなと思います。

これから沢山の壁があり、考えて行動しないといけない場面が出てくると思います。そんな時、この本の親子のように一緒に考え、人の気持ちも考えられるそんな人に育つよう子供により添える親として、一人の人として、これからも頑張らなきゃと思える、そんな本でした。